

# 専門分野

## 老年看護学（講義4単位 実習4単位）

### 1. 老年看護学の考え方

老年期の対象は、人生の最終ステージを自己実現に向けて生きている存在であり、経験に裏付けられた知識と生活の厚みを持つ社会の資産である。一方、加齢変化による種々の身体機能低下が日常生活に影響を及ぼす過程でもある。現在、超高齢社会が到来し、後期高齢者人口の著しい増加率を迎えている。そのため、身体機能の低下や疾病により日常生活機能が低下し、寝たきりや認知症などのケアを必要とする人々が増加する一方、医療改定に伴い入院期間の短縮、家族の介護力の低下や老々世帯及び独居高齢者の増加による社会問題が生じている。

老年看護学では、高齢者が慣れ親しんだ地域において、その人らしさを保ち人生の統合に向かうことができるよう、入院時から多職種との連携を図り高齢者の「生活の質」を充実させるための看護ができる能力を養うことが求められている。そのために、まず老年期の特徴とそれを取り巻く社会の視点で高齢者をとらえる。そして高齢者の生活を支える機関や取り巻く社会情勢を理解する。増え続ける認知症や日常生活に影響を及ぼす老年期特有の健康問題・予防活動など、健康段階に応じた日常生活援助と人生の最終段階にある高齢者への看護について学ぶ。実習ではこれらを統合して、入院中から住み慣れた地域での生活に向けて生活機能を維持するための看護援助が実践できるよう学習する。また、全ての学習を通して人生の最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を学ぶ。

### 2. 目的

ライフサイクルにおける老年期の多様性を全人的に理解し、その人らしい生活を送れるように、高齢者とその家族の健康生活を支える看護を学ぶ。

### 3. 目標

- 1) 老年期の特徴を全人的に理解する。
- 2) 高齢者を取り巻く環境を理解する。
- 3) 高齢社会における医療と福祉の意義を知り、多職種との連携と看護の役割を理解する。
- 4) 高齢者の健康の維持・増進、障害を予防し、自立したその人らしい生活を送れるような支援について理解する。
- 5) 加齢変化や健康障害により、生活機能が低下した高齢者への看護を理解する。
- 6) 高齢者と高齢者を介護する家族の生活を支える看護を理解する。
- 7) 人生の最終段階にある高齢者の生命と人格を尊重する態度を身に付ける。
- 8) 老年期の特性を基盤に生活機能の視点から看護の展開方法を理解する。